

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300043		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス宮川		
所在地	飛騨市宮川町巣之内63		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173300043&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然環境の中で、利用者はそれぞれ自分のペースでゆったり過ごしておられます。本年度は個々人の能力に合わせた体操、敷地内散歩に力を入れ筋力低下の防止に努めています。更に、地域住民との協力体制の下、火災時の避難訓練に参加いただいている。職員は利用者一人ひとりと向き合い、共に過ごす時間を大切にし、楽しく穏やかに日々を過ごせるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>県最北の町にあり、豊かな自然環境に恵まれたホームである。前庭は、ゲートボール場を兼ねており、地元の高齢者との交流拠点になっている。また、中学の全校生徒約20名が、定期的に訪れ、楽しい交流の場を提供している。さらに、文化祭などの学校行事には、利用者一人ひとりに、招待状が届き、双方向の親密な関係を築いている。利用者は、自分のペースでゆったりと、時の流れを楽しむような生活を営んでいる。職員は、管理者を含め、異業種からの転入者もあり、利用者一人ひとりに向き合い、楽しく過ごす時間を大切にしたケアを実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生まれ育った地域とのかかわりの中で、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活が営めるように援助する」という方針に基づき、日々のケアを実践している。	生まれ育った地域の思い出や生い立ちを大切にしながら、「自立した生活で、余生を楽しく過ごしてもらう」を理念としている。管理者・職員は、会議の度に理念を確認・共有し、利用者の気持ちに向き合うケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりやイベントへの参加、地域行事の見物、中学生のボランティアの受け入れ及び学校行事の見学による双方向の交流など、地域の一員としての交流を図っている。	近隣の人々が、野菜を持って、毎日のように訪れている。地元中学校からは文化祭の招待状が届いたり、全校生徒をホームに招いたり、双方向の交流を行っている。また、地域からは、草刈りのボランティアや行事の手伝いも日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、避難訓練に参加していただき、認知症の人の理解に関しては少しずつ情報発信ができつつあるが、事業所の力を活かした地域貢献には質量とも不十分であり、事業所の認知度もまだ低い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は大きな情報発信の場であり、事業所の状況や利用者の状況を理解していただいている。出席者からは事業所だけでは気付かない事柄にも提言いただき、サービスの向上に活かしている。	会議は、2ヶ月ごとに開催し、家族・行政・民生委員・地域の人々が参加している。「防災訓練の体制や、安い食材費で賄えるか」等の意見が検討されている。意見提案等は、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者には毎回運営推進会議に出席いただき実情を伝えている。事業所の対応で判断に迷う時や困難事例等に対して相談するなど、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	市には、運営状況を定期的に報告している。介護保険の実施状況や、防災での共助に関する事で、話し合い、協力関係を築いている。事故事例は、随時報告し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」を参考にしながら職場内学習を重ね、身体拘束は行わないという共通認識のもとでケアを実践している。	身体拘束はしないことを、内部学習会で正しく理解し、徹底している。玄関は常に開放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止法」を中心に職場内学習を行い、一人ひとりを人として大切に虐待防止には日頃から心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護、あるいは制度の活用についての認識は薄い。学習会については今年度中には行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の重要事項、運営規定等詳しく説明し利用者や家族が理解、納得できるよう努めている。解約や改定時にも不安感や疑問点を解消できるよう詳しく説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時あるいは運営推進会議等において、利用者や家族の要望等を聞き、施設運営に反映させている。運営推進会議の後に一緒に食事をしたり、親睦会を持ったりして和やかな雰囲気の中で意見を聞くようにしている。	家族の面会時や、運営推進会議に出席した家族から意見を聞いている。「外出の機会を多くできないか、たまには近くの温泉に行けないか」等、意見が出ている。意見要望は、できるだけ運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、スタッフは月に2回の定例会あるいは随時の会議において意見交換を行い、必要な事柄は代表者に上申している。しかし、代表者とスタッフの会議はない。3施設合同の管理者会議は年に2回開催している。	管理者を含め、月に2回の定例会議で、意見交換をしている。「夜勤の勤務体制の組み方や、利用者の笑顔を引き出す工夫」等の意見があり、意見・提案を受け入れ、改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が向上心やプライドを持って働けるような職場環境、労働条件の整備に努め、少しずつ改善されつつある。7月に就業規則の整備、改定を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就職後3ヶ月間は職場内での職員研修に努め、それ以降は、職務経験に応じた研修が受けられるよう計画的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山間僻地にあるため、ややもすると外部との交流が少なく閉鎖的になりがちである。他の事業所からの施設見学を受け入れているが、相互訪問には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の生活歴、日常生活の様子、困っていること等を聞き、入所時には2・3日から1週間の体験入所をし、徐々に生活に慣れて安心を確保できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と出来るだけ多く面談を行い、今までの介護の状況や苦勞、不安に思っていること、要望等に耳を傾け、お互いの信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入に当たっては本人、家族との面談、前任ケアマネジャーとの情報交換を通し、その人に見合ったケアを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意なことに一緒に取り組んだり、人生経験談を聞いたりして、共に過ごす時間を大切にし時間をかけて関わり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のホームでの生活の様子を家族に知らせたり、写真や利用者の作った作品等を家族に渡すなど、利用者と家族の絆が深まるよう働きかけ、本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各人の馴染みの人と会ったり、馴染みの場所へ出かけるという個別の対応は難しいが、集団で、地元の催し物、祭礼等に出向き関係が途切れないようにしている。	市の中心より遠隔地にあり、馴染みの人が面会に来ることは少ないが、地域との交流に努めている。近所の高齢者やボランティアの人、中学生との交流、地元の商店や催事等に出かけ、馴染みの関係づくりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人、馬の合わない人など利用者間の人間関係の把握に努め、その時々、職員が調整役となって利用者同士が関わりあえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他の施設へ移る場合は、先方の事前訪問を受け入れ、両者で話し合いを持ちケアの継続性を保てるようにしている。重度化(多くは死亡)の場合には関係の継続はほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と向き合う時間をとり、一人ひとりの思いをくみ取り、希望に添えるような働きかけに努めている。自己表現の少ない人出来ない人にも問いかけを多くし、表情等の変化を注意深く見るようにしている	日々の会話の中で、一人ひとりの思いや意向を把握している。意思表示の困難な人は、表情の変化を見ながら思いを汲み取っている。個々の思いは、「個人ノート」に記録し、個別支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との日常会話の中からその人の生活歴、暮らし振りを知るように努めている。家族、前任ケアマネジャーからも情報を得て、これまでの暮らし方についても知るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日常の様子を午前、午後、夜間に分けて個別に記録している。記録を重ねることで体調の変化、その人の有する能力が分かるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望、意向を取り入れて職員間で協議し介護計画を作成している。受け持ち担当者は毎月モニタリングを行い、課題となる事柄については職員間で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	月に2回、全体会議で意見を出し合い、介護計画の見直しや把握をしている。本人・家族の希望、かかりつけ医の診断結果をまとめ、ケアマネジャーが介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践等を個別のサービス経過記録に記入し、また、状況の変化、ケア方法の変化については業務日誌、個別ノートに記載し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、通院介助、地域行事・季節行事への参加、温泉施設の利用、出張理容の活用等、その時々ニーズに対応できるよう、事業所の出来る範囲で柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生のボランティア活動、クリスマスなどの訪問があり、また、学校行事への招待も受け参加するなど交流を図っている。また、地域の方に火災避難通報訓練に協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の定期往診を受けているが、その他に症状がある時には状態を報告し指示をいただいている。急変時等には紹介状を発行いただき、他の医療機関への受診も円滑に行うことができている。	利用者・家族の承諾を得て、全員が協力医をかかりつけ医に定めている。2週間に1回の往診があり、急変時には、指定の医療機関へ円滑に繋げる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はほぼ常駐しており、介護職は日常の関わりの中でとらえた情報、気がかりなことなどを看護職に報告し、利用者が適切な看護・医療を受けられるよう協力し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には介護情報を医療機関に提供し、入院中もお互いに情報交換を行っている。退院時には退院サマリーをいただくなど、医療関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りへの対応について全職員で話しあい、現段階では看取りの導入は無理との結論に至った。利用者家族にもこの点については理解していただいている。	重度化・終末期の対応は契約時に、説明が行われている。ホームでの介護が出来るまでを限度とし、医療対応が必要になった場合は、家族・かかりつけ医と話し合い、医療機関に委ねることを方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法、応急手当、通報の心構え等について、消防署職員による研修会を行った。職員間で救急蘇生法等について学習を継続し、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回以上避難訓練をしている。行政、地域、施設の3者による話し合いをし、その場での提言を受けベランダから避難できるように改善した。地域住民の方に協力いただき避難訓練を実施した。	年に2回、避難訓練を実施し、自主訓練も3ヶ月毎に行われている。今年度からは、住民参加の訓練が実現している。水害で孤立した経験があり、近くには「跡津川断層」もあるため、地震にも備えることを検討している。	備蓄や脱出具なども検討されたい。また、スプリンクラーの設置が計画中であり、早期の実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れないように接している。一人ひとり思いや感じ方が違うので、その人の人生経験や価値観をよく踏まえて会話するように気を付けている。	個々の、価値観や習慣を踏まえ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。失敗を責めたり、否定や命令口調にならないように、優しい言葉で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話のなかで利用者が自分の思いを言いやすい様な問いかけに心がけている。自分の思いを言いくさうな人に対しては、時間をかけて、何気なく引き出せるような気を配って話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ、体操の時間は決めているが、それ以外の時間は一人ひとり好きなように過ごせるようにしている。利用者のその日の体調や気持ちを尊重しながらマイペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好きな服装や好みのおしゃれができるよう、服は季節に合った、清潔なものを身につけれるようにしている。季節に合わない服装、あるいは身だしなみに無頓着な人に対しては一緒に服選び等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合った食材を使い、懐かしい味、昔食べた食事なども提供し喜んでもらっている。好き嫌いのある人には無理強いせず、代わりの食事を提供している。配膳・下膳や洗い片づけのできる人には手伝ってもらっている。	料理の品数が多く、懐かしい家庭的な味の食事を提供し、喜んでもらっている。職員も同じ物を一緒に摂り、ゆっくり食事を楽しんでいる。配膳や後片付けなども、利用者は楽しそうに手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には管理栄養士がたてた献立に基づいており、栄養のバランスは取れている。一人ひとりの食事量を記録し、体調や体重を参考にしながら食事量を調整している。食事時、10時と3時及び入浴の前には水分を摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前、起床時には口腔ケアを行っている。自分で出来る人には行ってもらい、自発的に出来ない人には、タイミングを見計らって声をかけたり、一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンに合わせて時間を見計らってトイレ誘導し、トイレで排泄できるようにしている。便意、尿意のはっきりしない人に対しては定期的にポータブルトイレに座らせ排泄を試みている。	個々の排泄パターンを把握し、小まめな誘導を行っている。6名は自立し、見守りも容易であるが、意思表示や判別の困難な人には、ポータブルトイレを柔軟に活用している。	2階の利用者は自立度が高いが、夜間など一人でのトイレ使用時に、事故などの不安があるため、トイレに緊急呼び出しブザーを設置するなど、安全にも配慮されたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維質を多く摂ってもらい、また運動を通して自然排便が出来るよう支援している。排便状態をバイタル表に記入し各個人の状況を把握し、便秘傾向が続く場合にはマッサージ等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴できるよう予定を組み、当日の本人の体調、予定を考慮しながら適宜調整している。お湯の温度や入浴方法等は本人の希望に添い、入浴中は見守りを行い安全に入浴できるようにしている。	週に2回、入浴日を定めているが、希望により何時でも入浴できる体制である。体調によっては、足湯も行っている。入浴を促す場合は、さりげなく、時間にゆとりを持って、誘うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人のペースを尊重しながら、無理なく活動ができるようにし、昼食後はすこし休息を取っていただいている。夜間は安眠できるようにし自然な生活のリズムが保てるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はその都度本人に渡し服薬を確認している。処方箋は一つにまとめ見やすいようにしている。薬の変更時には変更理由、留意点等を往診ノートに記入し情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の手入れ、野菜の取り入れあるいは裁縫等、一人ひとりの得意分野で経験や知恵を発揮してもらい、その人らしい喜びや姿が蘇るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は「どこか行きたい」と言われることはあるが、具体的には場所を上げられないので、施設で花苗を買いに行ったり、温泉へ行ったり、また地域散策・地域のイベント等に出かけている。	ホーム周辺は、散策する環境に恵まれており、日常的に出かけている。寺や水芭蕉の生息地も近いので、定期的に出かけている。また、そばまつり、中学校の行事や温泉等に行く楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理できる方は自己管理とし、それと同時に、事務所でも利用者の金銭を預かり希望に応じて支出している。買い物等に出かける時には自分で支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話(携帯を含む)を設置している人もあるが、多くの人は事務所の電話を利用し、職員が取り次ぎを行い出来る限り肉声が聞けるようにしている。年賀状等季節の便りを書かれる人の投函を手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集うホールは採光、風通しがよく開放感がある。景色もよく見えるので季節感も味わえる。自分たちの作った作品や行事等の写真を飾ったり、季節の花を飾ったりして、気持ちの安らぐ空間作りを工夫している。	利用者同士が寛げる広い居間に、畳みのコーナーがある。自分で操作して、1階と2階を行き来するエレベーターもある。壁には、利用者の笑顔の大判写真が入居順に見やすい位置に張られている。季節の花を随所に飾り、気持ちが安らぐよう、居心地に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペース、ソファー等で気の合った者同士、気楽に過ごせるように居場所を工夫している。ホール内のテーブル席は食事中・趣味の時間中も気の合った者同士で思い思いに過ごせるように配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人の馴染みのものを使用したり、好きなものを飾りつけたりして、居心地良く過ごせるようにしている。部屋の片づけが十分できない方には、一緒に掃除したり、整理整頓を行い快適に生活できるようにしている。	各部屋には、大きな窓があり、明るく、外の景色が眺められる。それぞれに、馴染みの物や家族の写真が置いてある。季節の花を飾り、落ち着いた雰囲気づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で移動できる方には2階、不安のある方には1階と、その人に合わせて部屋を選び、手すりをつけたり段差の解消を行ったり、目印を付けるなど安全に生活できるように工夫している。		